

CASBEE-建築(新築)2014年版
小倉地方合同庁舎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.8
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.6
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	床・天井に吸音材を使用している。	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御		2.6	0.50	-	-	
1 室温		2.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		4.3	0.25	-	-	4.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率:2.5%以上。	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	ブラインド・庇により昼光を制御している。	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度	設計照度500lx以上。	4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	明るさセンサーによる自動調光システムを採用。	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.5	0.25	-	-	4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	規制対象外の建築材料を使用。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	一人当たりの外気量を多く取り入れている。	4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効面積:居室床面積の1/15以上。	5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙所に、負圧となるよう排気ファンを設置している。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.8
1 機能性		4.2	0.40	-	-	4.2
1.1 機能性・使いやすさ		4.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	一人当たりの執務スペース:12㎡以上。	5.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている。	5.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースの確保、自動販売機の設置。	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	内装コンセプト計画及び照明との一体的計画等がある。	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性に配慮した材料の使用等。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性	耐震性の割増を行っている。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上材を使用している。	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用している。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1 空調・換気設備		3.6	0.20		-	
	2 給排水・衛生設備	節水器具の設置、災害時の水栓設置等がある。	3.0	0.20		-	
	3 電気設備	非常用発電機の設置、重要機器の浸水対策等。	4.0	0.20		-	
	4 機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20		-	
	5 通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1	1 階高のゆとり	階高:3.8m以上。	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.24	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30		-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	小倉城の石垣をモチーフとした石積の再現等。	5.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	屋上に排熱機器を集約することで温熱環境の向上に配慮している。	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.9	0.20		-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	集合住宅以外の評価(3a.3b)	高効率な設備機器を導入している。	4.0	1.00		-	
	集合住宅の評価(3c)					-	
4 効率的運用			3.5	0.20		-	3.5
集合住宅以外の評価	集合住宅以外の評価		3.5	1.00		-	
	4.1 モニタリング	用途別にエネルギー消費量の把握ができる。	4.0	0.50		-	
集合住宅の評価	4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
	4.1 モニタリング					-	
	4.2 運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水	1.1 節水	給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
1	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60		-	4.1
2.1 材料使用量の削減	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎梁・基礎:高炉セメントB種	5.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材、床:タイルカーペット、ビニルタイル	5.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の分離が容易、OAフロアの採用。	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
1	1 消火剤		-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、かつGWP<50の断熱材を使用。	4.0	0.50		-	
3	3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
	3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車スペースの確保等。	5.0	0.33		-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミのストックスペース確保等。	4.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音		3.0	1.00		-	
2	2 振動		-	-		-	
	3 悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	2 砂塵の抑制			-		-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制	3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	効率のよい屋外照明器具の採用等。	4.0	0.70		-	
2	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	